

## 地元で営巣したコウノトリの観察と見回り活動報告

総合技術監理・建設部門 井田 豊

### はじめに

平成29年3月11日自宅前の畑を耕作中、頭上で大きな風切り音がし見上げると巨大な鳥が飛んでいるのを発見した。行方を追うと150m先の電柱に停まり、よく見ると巣が出来ていることに気づいた。

過去2回、旅の途中で豊岡の兵庫県立コウノトリ郷公園（以下、郷公園）に立ち寄りコウノトリは見ていたが、まさかこの地に飛来するとは夢にも思っておらず、知識に疎く、特定するには少々時間を要した。数日後、島根日日新聞でコウノトリが飛来し営巣したことが報じられ、地元は歓喜に沸いた。

コウノトリの研究については、島根県技術士会の生物多様性研究分科会が、昨年郷公園に視察研修をしたことを聞いていたので、技術士会の地元会員として情報の提供を通して少しでもお役に立てばとの思いで、コウノトリの観察を行った。

この報告書では、コウノトリのペアが営巣してからメスの親鳥（J0047 ♀2012生）が誤射され4羽のヒナが郷公園に保護され、取り残されたオスの親鳥（J0118 ♂2014生 以下、げんきくん）が巣を離れるまでの観察状況と雲南市に飛来している他のコウノトリの見回り活動について述べる。



写真-1 巣を見つけた日（3/11）の状況

## 2. 巣観察と見回り活動状況

2-1 巣観察（3/11に巣を発見してから産卵、孵化、メスの親鳥誤射、ヒナの收容、その後げんきくんが巣を去る5/24午前中まで）

・3/16巣作りをして繁殖行動をしていると報道され、約1週間後には巣の上で臥せったり、立ったりを繰り返していたが、双眼鏡では卵は確認できなかった。

産卵後は巣を空けることはなく二羽が交替で抱卵し、概ね二時間で交替して一羽はすぐに巣を離れ採餌に飛び立っていた。後に知ることになったが、ペアでありながら採餌場が異なっていたのには驚いた。

夜間は一羽が巣に残り抱卵し、もう一羽は巣を離れて別の場で夜を明かし薄暗い早朝に巣に戻って抱卵を交替していたが、夜間の抱卵を日ごとに交替していたかどうかは不明である。

抱卵中時々立ち上がって、巣の上で脚を動かしている様子が見られたが、後にそれは卵を動かす動作であることが分かった。

・4/25から次々に孵化し四羽のヒナが誕生した。毎日朝夕、ヒナを観察することが楽しみの一つになった。双眼鏡でヒナ三羽は概ね観察できたが、四羽観察できることは稀で、見えた時には一羽が非常に小さく成長が遅れているのではないかと思う程だった。「ヒナは四羽全部巣立つのはあり得ない。親は10日前後に一番小さいの間引くことが往々にある」(兵庫県立大学地域資源マネジメント研究科 江崎保男教授)との情報があり、鳴門市では実際に生じていたので四羽観察できた時には安堵した。

親鳥は巣を空けることはなく交替で採餌に出かけ、餌を与えるはきだし行動を見ることもできた。時には、木の枝をくわえて帰り巣を補強したり、枯草を持ち帰って巣の中に入れる様子が見られ、ヒナの保護のためと思われた。

巣の近くまで近寄って写真撮影する人、カラスが巣のすぐ近くの電線に止まって巣を狙っている様子を目にすることもあり無事巣立つことを願わずにはおられなかった。保護、安全管理のため、雲南市教育委員会により巣近くの道路には、見学者の通行を規制する看板が設置されたり、連休には警備員が巡回していた。これだけ報道されると誰しも一度見たいと思うのは当たり前のことであり、希望者が観察できるよう害のない場所に観察スポットを特定する等の方法もあったのではないかと思う。

・ヒナが順調に成長し喜んでいたところ、5/19、母鳥が誤射され大きな衝撃を受けた。当日夕方耳にしたとき「嘘ではないか」「嘘であって欲しい」と信じられない思いであった。20日程前の四羽のヒナ誕生の吉報が一転し、暗いニュースとなり地域住民に与えた衝撃は非常に大きかった。当夜、げんきくんは四羽のヒナと巣で過ごしていた。

翌朝、早い時間からげんきくんは採餌活動に精をだし20～30分間隔で巣に戻り、子育てに必死に動いた。

誤射二日後の21日の朝、NHKのニュースで四羽のヒナは郷公園に保護・飼育されることが報じられ、当日昼過ぎから大勢の地域住民が見守るなかで郷公園の獣医師達により保護作業が行われた。その時ちょうど、げんきくんは巣に戻っていて、高所作業車の獣医師の網がヒナに被せられる直前まで巣におり、その後飛び立ち巣の上空を旋回しながら保護作業を見つめていた。30分位で保護作業が終了し四羽のヒナは郷公園の車でこの地を去って行った。



写真-2 巣を補強中のペア (5/5)



写真-3 げんきくんとひなヒナ (5/20)

間もなく、げんきくんは巣に戻り、巣の中を口ばしで掻き回し必死にヒナを探す行動が見られ、時折茫然と立ちすくんでいた。

ヒナが保護された夜を含め三晩をこの巣で過ごし、昼間は採餌場と巣の往復を繰り返していたが、巣上にいる時間が多かったと記憶している。

5/24午前中まで巣にいるげんきくんを見たが、その後は巣に戻った姿はもとより巣の周辺を飛んでいる姿さえ今日に至るまで一度も目撃したことはない。

伴侶を失なったげんきくんが一日だけではあったが、懸命に子育てをする姿を見た時、非常に感動した。その矢先に、目の前で四羽のヒナとの別れがあり可哀そうではなかった。

全くの私見であるが、四羽のヒナのうち、せめて一羽だけでも残してげんきくんに子育てさせることはできなかったのだろうか考える。近くにいてもいまだに一度も巣の近くには姿を見せないことを考えると、一度に伴侶と四羽のヒナを失い、巣や地域に良い印象を抱いていないのではないだろうかと思う。一羽でも残して育てることによって、愛着を持ち再び住み慣れた巣に帰ってきて欲しいと願うのははかない期待であろうか。



写真-4 ヒナの保護状況 (5/21)



写真-5 ヒナを捜すげんきくん (5/21)

2-2見回り活動 (げんきくんが巣を去ってから、四羽のヒナ放鳥、12/19まで)

げんきくんが巣を去ってからの足取りは、コウノトリ位置情報-福井県ホームページによると下記のようなものである。

5/26 雲南市を離れる。

5/27 高浜町 (福井県) ⇒かほく市 (石川県) ⇒豊岡市

6/4 ~ 7/21 AM 雲南市滞在

7/21 PM 豊岡市 ⇒小浜市、敦賀市 (福井県) ⇒松坂市 (三重県) ⇒三田市 (兵庫県)

7/30 ~ 9/12 雲南市滞在

9/13 豊岡市 ⇒京丹後市 (京都府) ⇒守山市 (滋賀県) ⇒京丹後市 ⇒豊岡市 ⇒京丹後市 ⇒豊岡市 ⇒鳥取市

11/8 ~ 12/19 現在 雲南市滞在中

上記の情報、NPOコウノトリ湿地ネット一目撃情報 (以下、湿地ネット) や知人か

らの情報を基に見回りを開始した。

・5/26午前には義弟（誤射されたメスの親鳥の弟）の個体（J0126 ♂ 2016生）と一緒に加茂町にいた（湿地ネット）と知り驚くと共に単なる偶然ではなく何かの引き合わせがあるのではないかと思った。6/24加茂町砂子原の圃場で、J0126と一緒に仲良く採餌している姿を目撃し感動した。その後、雲南市立西小学校（以下、西小学校）近くの電柱の塀にいるのを見つけた。採餌場は西小周辺と加茂町の圃場であり、加茂町では義弟と一緒にすることが多く、よほど気が合ったと思われる。



写真-6 げんきくんと義弟のツーショット（湿地ネットより）

・7/12郷公園に保護され飼育された四羽の幼鳥が、多数の地域住民や西小学校の児童が見守るなかで雲南市大東町養賀の圃場から放鳥された。四羽の幼鳥は親鳥と変わらないくらいに大きく成長しており、大空に舞い上がって飛ぶ姿は壮大で優雅であり、本当に感動した。四羽の性別はオス三羽メス一羽で、愛称募集によりそれぞれ春希くん（J0173 ♂）、うららくん（J0174 ♂）、姫ちゃん（J0175 ♀）、げんちゃん（J0176 ♂）と愛称がつけられた。放鳥された四羽のうちげんちゃんを除く三羽は雲南市を離れる9月下旬まで殆ど共に行動していた。げんちゃんは放鳥後



写真-7 ヒナ放鳥の様子（7/12）

兄弟と一緒に行動しているのを目撃したことはなく、孤軍奮闘していたようであるが、8/8に鳥取市気高町で死亡しているのが発見されたと報じられた。後日、建材用ゴムの誤食による衰弱死だったことが判明した。残念な出来事であった。

8/16げんきくんが我が子二羽（春希くん、うららくん）と一緒にいるのを溜り場である斐伊川の中洲で目撃した。他の個体三羽と計六羽一緒にいた。同時に六羽も目撃したのは初めてであった。



写真-8 斐伊川にいる六羽のコウノトリ（8/16）

その後、9/8にげんきくん、うららくん、J0144（♀ 2017）三羽が西小学校近くの電柱の塀にいるのを目撃したが、果たしてげんきくんは我が子と認識できたであろうか。

・げんきくんは雲南市を離れても、今までは7～10日で帰って来ていた。しかし、9/12に雲南市を離れて以来一ヶ月経っても帰らず、もう帰って来ないのではないかと大変心配したが、約二ヶ月後の11/8西小学校近くの埒で見撃した時は涙が出るほど嬉しく、さすがは雲南のパパだと感じた。

げんきくんが留守の間に雲南市にいた個体にも出入りがあり、一時期J0135（♂ 2016生）の一羽だけになったこともあった。この個体は、平成26年10月末に雲南市に飛来後、一度は離れたものの最も長期間雲南市に滞在していて雲南市が気に入っていると思われる。

げんきくんの子供三羽も一度は豊岡へ向けて飛び立って行ったが、姫ちゃんが生まれ故郷に帰って来てくれたことは大変な喜びであった。

・12/19現在、雲南市にいる個体は、げんきくん、姫ちゃん、J0051（♀ 2012生）、J0125（♂ 2016生）、J0135（♂ 2016生）、の五羽である。

最近は餌が少なくなったのか採餌場所に変化が生じ、今までは相性の良い個体同士が連れ添って採餌していたが、五羽の個体が一緒に採餌する姿を目撃することが多くなってきた。また、げんきくんはJ0051（げんきくんと同様に韓国に行ったことがあり、韓国ではポンスニとよばれ、平成27年4月下旬に雲南市に飛来し、一時期離れていたことがあったが、雲南市には比較的長期間滞在している個体である）と寄り添って採餌する姿をしばしば見受けられるようになった。ペアリングを期待しているところである。

埒は、げんきくんは所定の電柱で、隣接する電柱には姫ちゃんとJ0051がいることが多く、J0135、J0125の埒は不明である。

・11/28西小学校の校庭の角に人工巣塔が設置された。この巣塔の存在を上空を飛ぶコウノトリ達が早く見つけ、営巣してくれることを期待している。

・12/5以降は、埒が電柱から加茂町の圃場に移った。前夜は、姫ちゃんだけがいつもの電柱の埒で一晩を過ごしていて、雷を伴った強い風雪で心配したが、翌朝加茂の圃場で元気な姿を見てほっとした。この日から五羽全ての個体と同じ場所で夜を明かすことが多くなった。この埒としている圃場は電柱埒と違い、強風等の悪天候から身を守ることが出来る、広い平地で山から離れており外敵に襲われることがない等安全な場所を選んでいると感じた。集団でいることの安心感もあると思われる。



写真-9 加茂町の圃場いる  
四羽のコウノトリ（12/6）

#### 4. 将来展望について

げんきくんが営巣した電柱は地域住民の要望により中国電力の協力で送電線が下げられ、新たに上部に巣台が設置された。11月げんきくんが雲南市に帰って来てからは、

前述のようにJ0051と行動を共にしている姿をしばしば目撃しているのでペアリングしこの巣台での営巣を期待している。しかし、げんきくんにとっては良い印象の巣ではないかも知れない。

また、西小学校児童が巣材集めのための一枝持ち寄り活動を行って、校庭に設置された人工巣塔での営巣を待ち望んでおり、夢を叶えて欲しいと願っている。

コウノトリの定住・繁殖には採餌場確保が重要な課題である。現時点では、大東町春地区殖振興協議会により営巣した地区内に休耕田を利用した餌場が作られている。また冬季の餌場確保として大東町では西小学校周辺の一部の圃場でのみ湛水が実施されているだけである。将来的には冬水田んぼの拡大が望まれる。今後は行政と雲南市全体の地域が連携して継続的に環境整備に取り組む組織づくりが必要であると思われる。



写真-10 人工巣塔

## おわりに

湿地ネットや地域住民からの情報を得て思いがけないことで、長期間に亘ってコウノトリを観察することができ、感心が深まった。今後も見回り活動を継続したいと思っており、コウノトリ達が選んでくれたこの地雲南市が第二の豊岡市になるよう微力ながら定住促進に協力したいと考えている。

以上

## 《引用文献・参考資料等》

- ◎毎日放送 4/4 (火) 配信
- ◎コウノトリ足環カタログ—兵庫県立コウノトリ郷公園
- ◎NPOコウノトリ湿地ネット—目撃情報
- ◎コウノトリ位置情報—福井県ホームページ